

生涯学習・社会教育関係職員研修講座センター研修【選択研修第4回】

令和7年8月29日(金)10:00～15:00 県総合社会教育センター 受講者26名

1 内容

【講 義】「障がい者の生涯学習を支える自治体の役割」

【講 師】国立市公民館 館長補佐

社会教育主事 井口 啓太郎 氏



【経 歴】

東京都国立市の社会教育主事として「しょうがいしゃ青年教室」等に関わり、2018年から文部科学省にて障がい者の生涯学習政策を担当。2022年から現場に戻り、実践に関わりながら共に学ぶ在り方の研究等に取り組んでいる。

【講義要旨】

○SDGsの「誰一人取り残さない」「公正で包摂的な社会」を目指し、生涯学習や社会教育の視点から、持続可能な共生社会の実現に貢献しましょう。

○障がい者の生涯学習は、当事者をエンパワーし、福祉が用意する「小さな社会」を広げるとともに、「健常者中心の社会」を変える共生への学びを促進することを目的としています。

○障がい者の生涯学習の取り組みを新たに立ち上げること（0から1）も大事ですが、現行の事業・講座が誰にでも開かれているか、改めて考えてみる（9から10）が第一歩になります。

【実践事例紹介・「障がい者の生涯学習」ははじめの一步
ワークショップ】 ～社会的包摂への一步を踏み出すために～

【講 師】秋田県生涯学習センター

副主幹（兼）学習事業チームリーダー 柏木 睦 氏



【経 歴】

秋田県生涯学習センターでは、「障害者の生涯学習」に関する調査研究を中心とした活動を行い、地域課題の解決に向けた知見を提供している。また、地域のニーズに応じたオーダーメイド型社会教育主事派遣を実施し、きめ細かな支援を行っている。

【講義要旨】

○障がい者の生涯学習では、防災やスポーツ、熟議を通じた体験を通して楽しさや行動への意欲を引き出し、自由な意見交換を大切にしましょう。

○場の規模や人数に囚われず、過度な広報の期待を控え、無理なく分担しながら、着実に取り組みを続けていくことが重要です。

○目的を見失わないよう何が大切かを常に考えながら、柔軟さを保ちつつ信念を持ち続けることが重要です。さらに、自ら体験・経験を重ね、小さな行動から着実に形にし、規模に囚われず広い視野で実行を心がけましょう。

2 受講者の感想

- ・障がいのある方だけでなく若者などが一緒になって公民館でいろいろな活動をしていることが心に残りました。社会教育が生活を豊かにすることがよく分かりました。
- ・障がい者が生涯学び続ける仕組みを知ることができました。生涯学習、防災、スポーツ、熟議と取り組めるヒントをいただきました。